



世界冬の都市市長会 広報誌

日本語特別号

2006年4月発行

World Winter Cities Association for Mayors

〈世界冬の都市市長会事務局〉

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市総務局国際部内 TEL 011-211-2032 FAX 011-218-5168

e-mail : wwcam@city.sapporo.jp URL : http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/



「冬における発展」を テーマに熱い議論

中国東北部の冬の都市長春で第12回世界冬の都市市長会議開催

世界冬の都市市長会は2006年1月15日から18日までの間、第12回世界冬の都市市長会議を中国・吉林省の省都長春市で開催いたしました。

「冬における発展 (Grow in Winter)」をメインテーマとした今回の会議では、13ヵ国29の冬の都市の市長や代表者が参加し、4日間にわたって熱い議論を交わしました。



■会議参加都市 (13ヵ国29都市)

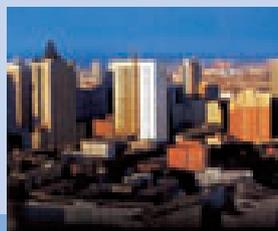
国名	都市名
カナダ	ルドゥック市、プリンス・ジョージ市
中国	白銀市、長春市、ハルビン市、 ジャムス市、吉林市、鶏西市、昆明市、 綿陽市、チチハル市、瀋陽市、四平市、 天津市、通化市、ウルムチ市
エストニア	マールドゥ市
グリーンランド	ヌーク市
日本	青森市、札幌市、仙台市
韓国	太白市
リトアニア	カウナス市
ノルウェー	トロムソ市
ロシア	マガダン市
セルビア・モンテネグロ	ノビ・サド市
スロバキア	ジリナ市
スウェーデン	カルマル市
米 国	アンカレッジ市

＊長春市ってどんなところ？

長春市は中国東北部に位置し、200年余りの歴史を持つ吉林省の省都です。自動車産業や映画産業が盛んです。緯度的には北海道旭川市とほぼ同じぐらいに位置しています。

【基本データ】

●人口 718万人 ●面積 20,571 km² ●年間平均気温 5.2℃



世界冬の都市市長会について、まずお知りになりたい方は、折り込みの概要版をご覧ください。

市長会議

今回の市長会議では、「冬季における環境問題」と「冬季における市民生活の課題の克服について」を協議テーマに、参加市長や代表者による意見交換が行われました。



1 冬季における環境問題

まず会議の最初に、開催市である長春市から同市の環境汚染、省エネルギー問題、都心の交通状況、緑化対策などの現状と課題について説明があり、市長会議を通じて参加都市の先進事例を学びたいとの意欲が示されました。その後、各都市より事例発表が行われました。



カルマル市(スウェーデン)の事例発表

環境に優しいエネルギー「木質バイオマス」

事例発表では、最初にカナダのプリンス・ジョージ市が、木質ペレットなど木質バイオマスを活かした暖房システムを紹介し、木質バイオマスが二酸化炭素の削減に効果があることを説明しました。

また、環境先進国であるスウェーデンのカルマル市も、木質ペレットが二酸化炭素の削減に非常に効果的であることを説明し、木質ペレットの活用事例や、カルマル市が木質ペレットを導入するにあたって、化石燃料を使わない社会を目指していることなどを、グラフをまじえて分かりやすく紹介しました。



プリンス・ジョージ市(カナダ)の事例発表

札幌市からは地域冷暖房システムを紹介

札幌市からは、環境に配慮した冷暖房システムとして、熱供給施設から複数の建物に、熱供給のための管を通して、冷水、温水、蒸気を供給する地域冷暖房のシステムが紹介されました。また熱源の一例として、木・紙・プラスチックの廃棄物を利用したごみ固形化燃料の取組も紹介されました。

また、エストニアのマールドゥ市からも、省エネ対策を盛り込んだ環境保全計画が紹介されました。参加者は各市の工夫をこらした環境政策について、熱心に聞き入っていました。

*木質ペレットって何？

木質ペレットとは木を伐採する時に捨てられる木くずなどを粉末にして、長さ約2cmの円筒形にした燃料です。

環境に優しい再生資源として、北欧諸国を中心に利用されています。



世界冬の都市市長会とは

「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界の冬の都市が集まり、冬の技術や経験を学びあうためのネットワークです。1981年に札幌市が提唱し、翌年に第1回の市長会議を開催したのが始まりです。2004年に名称を「北方都市市長会」から「世界冬の都市市長会」に変更しました。

これまでの会議では、都市計画、冬の都市交通、除排雪、リサイクル、冬の観光資源開発などについて市長同士がそれぞれの都市の知恵と経験を共有し、まちづくりのアイデアや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。



1982年 第1回札幌会議

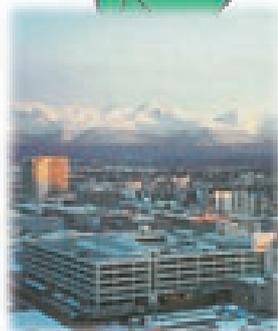
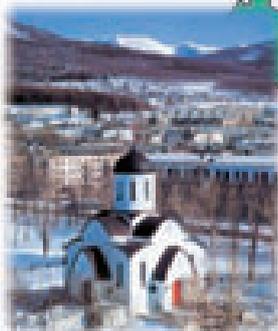
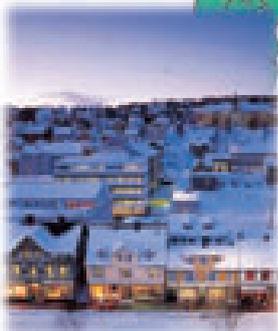
冬の都市とは

積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

積雪の基準・・・年間最大積雪量が概ね20cm(8インチ)以上となること。

寒冷の基準・・・1年間のうちでもっとも寒い月の平均気温が概ね摂氏0度(華氏32度)以下となること。

会員都市 11カ国19都市 (2006年1月現在)



主な活動内容

市長会議

世界冬の都市市長会の主要事業であり、2年に1度開催されます。

これまで12回の会議が開催されており、都市計画、環境、自然災害、除排雪などについて、市長同士が先駆都市と知恵や経験を共有し、「まちづくり」へのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。

市長会議は、市長自らが各都市の取組事例を紹介し、市長同士が膝を交えて率直な意見交換を行う格好の機会となっています。



冬の見本市、冬の都市フォーラム

冬の見本市、冬の都市フォーラムは、市長会議の併催事業です。

「冬の見本市」は、開催市および会員都市の企業や団体が中心となって、冬や雪に関連する機材や製品の展示をはじめ、様々な技術の紹介を行うものです。

「冬の都市フォーラム」は様々な分野の専門家や学術研究者、あるいは市民が、冬のライフスタイルやまちづくりなどについて発表を行う学術交流の場です。1988年の第3回会議から併催されるようになり、世界冬の都市市長会議は、大きなイベントに発展しました。



小委員会

各国の冬の都市の状況や先進事例を調査・研究する機関です。

これまでに、「リサイクル小委員会」、「観光促進小委員会」、「雪対策小委員会」、「自然災害対策小委員会」、「持続可能な冬の都市づくり小委員会」、「テロ対策小委員会」等が設置され、それぞれのテーマに基づいて調査・研究成果をまとめています。



実務者会議

会員都市の行政実務者が集まり、次期市長会議のテーマや市長会の運営などについて協議する会議です。



これまでの活動の成果（例）

- スパイクタイヤの規制
- 常緑樹の活用
- 街路灯のナトリウム灯化
- 雪や氷などを観光資源として活用する方策
- 厳冬期における道路建設技術
- 海水熱源を利用したロードヒーティングの実用化
- 間口除雪（住宅の玄関に雪山を残さない除雪方法）の機材の導入
- 除排雪に関する技術交流・人事交流

最新の会議内容やこれまでの成果に関する詳しい情報を、世界冬の都市市長会のホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。
(<http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/>) 世界冬の都市市長会は快適な冬のまちづくりについて共に考える会員都市を募集しています。
加入の詳しい要件などについては、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。

(Tel: 011-211-2032, Fax: 011-218-5168, E-mail: wwcam@city.sapporo.jp)

この冊子は古紙含有率100%の再生紙を使用しています。



さっぽろ市
02-802-06-34
18-2-4

「長春宣言」を採択、地球環境問題に一致団結

さらに、会議の最終日には、地球環境問題は国境を超えて取り組まなければならない緊急の課題であることを参加者全員が認識し、世界冬の都市市長会議参加都市が知恵と経験を共有して、環境問題に取り組んでいくことを宣言した「長春宣言」を採択しました。

また、冬の都市における環境問題の取組事例を、より詳細に調査するための小委員会を設置することが決議され、事務局が札幌市に置かれることになりました。

長 春 宣 言

地球温暖化に代表される地球環境問題は国を超えて各都市が協力して取り組まなければならない緊急の課題である。

寒冷・多雪という気候特性を有する冬の都市では、特に冬の暖房や除排雪、融雪などに消費されるエネルギー量は多量であり、急速な都市化の進展とともに益々地球環境への負荷を著しく高めている。

我々は、地球環境問題への対応として、冬のエネルギー消費量の削減及び環境への負荷の少ない都市活動の実現が、冬の都市に住む者にとって重要な課題であることを深く認識し、各都市が最大限の知恵と工夫をもってこの問題に取り組んでいくことを、世界冬の都市市長会としてここに宣言する。

また、世界冬の都市市長会は、上記宣言の理念を広く世界の冬の都市に訴え、その啓発に最大限努力することを併せて宣言する。

参加した 都市からの声

ロシア・マガダン市 副市長へのインタビュー



マガダン市の代表として、今回初めて世界冬の都市市長会議に参加しました。

今回会議に参加して種々感じるものがありました。各都市は、それぞれが直面している問題に対していろんな取組をしていることがわかり、学ぶことがたくさんありました。今回会議に参加し、まるで学校に入ったかのようにとても勉強になりました。このような大規模な会議を開催するのは、非常に難しいことと思いますが、会議が成功裡に、そして盛大に開催され感謝しております。長春市は、各参加都市に対して、最大の歓迎の意を示され、勤勉な姿勢を見せて頂き、感銘を受けました。

私はマガダン市の代表として是非会員として申し込みをし、「世界冬の都市市長会」に参加したいと考えております。特に我々の都市は、エネルギーの節約について興味がありますので、市長会に入会したら各会員都市のエネルギー政策について情報を交換したいと思います。

2 冬季における 市民生活の課題の克服について

冬季における環境問題に引き続き、「冬季における市民生活の課題の克服」について協議を行い、参加都市からユニークな取組が紹介されました。



青森市の事例発表



長春市の交通コントロールセンター

ユニークな冬の知恵と工夫

青森市より寒冷地における冬季の野菜栽培のシステムとして、寒締め栽培の紹介がありました。寒締め栽培は、耐寒性の高い野菜(ほうれん草など)を、ビニールを二重にした温室の中で栽培する方法です。寒締め栽培により、燃料や農薬が不要で、栄養価の高い野菜ができることを発表し、参加者の注目を集めていました。

炭鉱都市から冬のリゾート都市へ

観光誘致政策については、炭鉱都市からの転換を目指す韓国・太白市から、冬季の雪山の景色と大型リゾート施設を組み合わせ、冬の観光都市を目指した取組が紹介されました。太白市は大きく観光客を増やし、経済効果をあげているとのことでした。

小委員会報告

「持続可能な冬の都市づくり小委員会」(事務局：青森市)及び「テロ対策小委員会」(事務局：アンカレッジ市)が、4年間にわたる調査・研究の最終報告を行いました。

「持続可能な冬の都市づくり小委員会」は、これまでコンパクトシティの有効性を調査してきました。最終報告では、コンパクトシティの取組が、都市のエネルギーの消費量や二酸化炭素の排出量を減らし、行政コストを抑制するなど、まちづくりの手法として非常に有効であることを報告しました。

「テロ対策小委員会」は、都市におけるテロを危機管理上、想定しておかなければならない一つの非常事態ととらえ、危機管理センターの役割、他機関との連携、関係スタッフのトレーニングの必要性などについて報告しました。

*コンパクトシティとは

都市の規模拡大が生む課題解決のための都市居住型のまちづくりの手法。コンパクトなまちづくりを行うと、「職場と自宅が近くなり、通勤による交通渋滞が緩和される」、「徒歩で商店街や公共施設を利用することができる市民が増え、中心市街地の活性化につながる」などの様々な利点がある。



青森市がコンパクトシティの有効性を発表



持続可能な冬の都市づくり小委員会最終報告書



テロ対策小委員会最終報告書



アンカレッジ市(米国)がテロ対策の重要性を発表

冬の見本市、冬の都市フォーラム

会議と併せて「冬の見本市」、「冬の都市フォーラム」が開催されました。

「冬の見本市」では、中国国内外から200を超える企業・団体が出展し、大勢の長春市民が見本市を訪れ、冬の製品や冬の技術を紹介したブースに興味深く見学していました。

また、「冬の都市フォーラム」では「環境」、「冬のまちづくり」、「観光振興」などをテーマに、中国国内外から28人の大学関係者や専門家が、冬のまちづくりや冬のライフスタイルについて講演を行いました。



冬の都市フォーラム



冬の見本市(グリーンランド・ヌーク市ブース)



冬の見本市(青森市ブース)